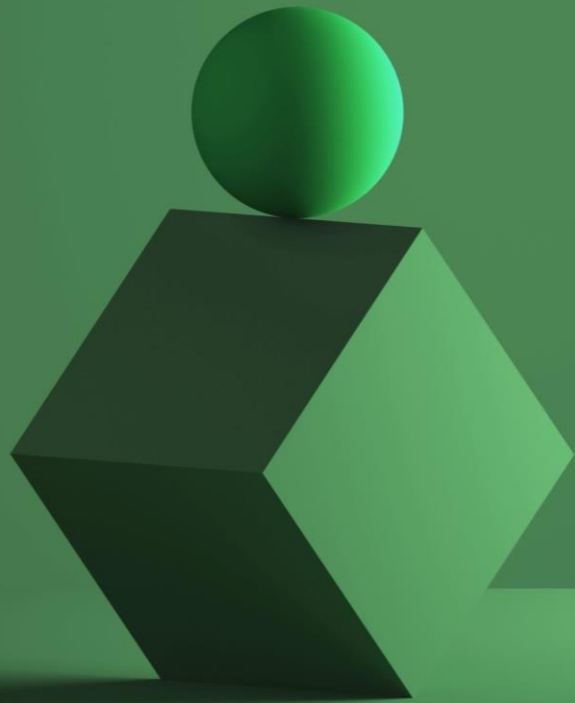


IPBES総会第11回会合結果報告会

2025年1月29日（水）



社会変革アセスメント 政策決定者向け要約(SPM)概要

国連大学サステイナビリティ高等研究所(UNU-IAS)
西麻衣子

評価の概要：

名称：生物多様性損失の根本的要因、社会変革の決定要因、2050年生物多様性ビジョン達成のための
オプションに関するテーマ別評価

- 主な目的：**持続可能な開発**における広範な社会・経済目標を考慮しつつ、**生物多様性の保全・再生・賢明な利用**に向けた**社会変革を生じさせる人間社会の要因**（個人・集団レベル：行動、社会、文化、経済、制度、技術など）を理解し、特定する

章	タイトル
1	社会変革と持続可能な世界 Transformative change and a sustainable world
2	持続可能な世界のビジョンー自然と人のために Visions of a sustainable world – for nature and people
3	社会変革はどのように起きるか？ How transformative change occurs
4	持続可能な世界に向けた社会変革を達成する上での困難な課題を乗り越える Overcoming the challenges of achieving transformative change toward a sustainable world
5	自然と人のための持続可能な世界を実現する：全てのための変革的な戦略・行動・役割 Realizing a sustainable world for nature and people: transformative strategies, actions and roles for all

評価の特徴：

公正で持続可能な世界に向けた**社会変革に関する知識**を評価

- 概念的かつ実証的
- 異なるタイプのエビデンスを総合的に評価
- **未来志向の戦略**に焦点を当てたユニークな取り組み

実施体制：

- 世界各地域の**42カ国**からの**101名**の専門家（ジェンダーバランス：女性53%、男性46%）による評価
- **社会科学・学際的**科学分野の専門家の比率が高い
- **3年間**にわたる評価で**10,000以上のコメント**に対応
- **約7,000件の文献、約800のビジョン、約400事例**(ケーススタディ)に基づく



Karen O'Brien
(ノルウェー/USA)



Lucas Garibaldi
(アルゼンチン)



Arun Agrawal
(USA/インド)

実施体制

専門家グループ

- 共同議長:3名
- CLAs: 15名
- LAs: 61名

- REs: 10名
- Fellows: 12名
- CAs: 200名以上

マネジメント・コミティ

- **Bureau (2名):**
Floyd Homer (トリニダトバゴ)
Asia Mohamed (スーダン)

- **MEP (3名):**
Özden Görücü (トルコ)
Markus Fischer (スイス)
Madhav Karki (ネパール)

技術支援機関（テクニカル・サポート・ユニット）

モンペリエ大学（仏）

Lurence Perianin (Head)、Camille Guibal (Programme Officer)、Anouk Renaud (Programme Assistant)

章	日本政府推薦
第1章	Yuki Yoshida (LA)
第2章	Akira Mori (LA)
第3章	Maiko Nishi (LA)
第4章	Kanako Morita (LA)
第5章	Fumiko Nakao (LA) Koji Miwa (Fellow)

政策決定者向け要約(SPM)の構成：

序文(Preamble)

主要メッセージ(Key Messages: KMs): 17KMs

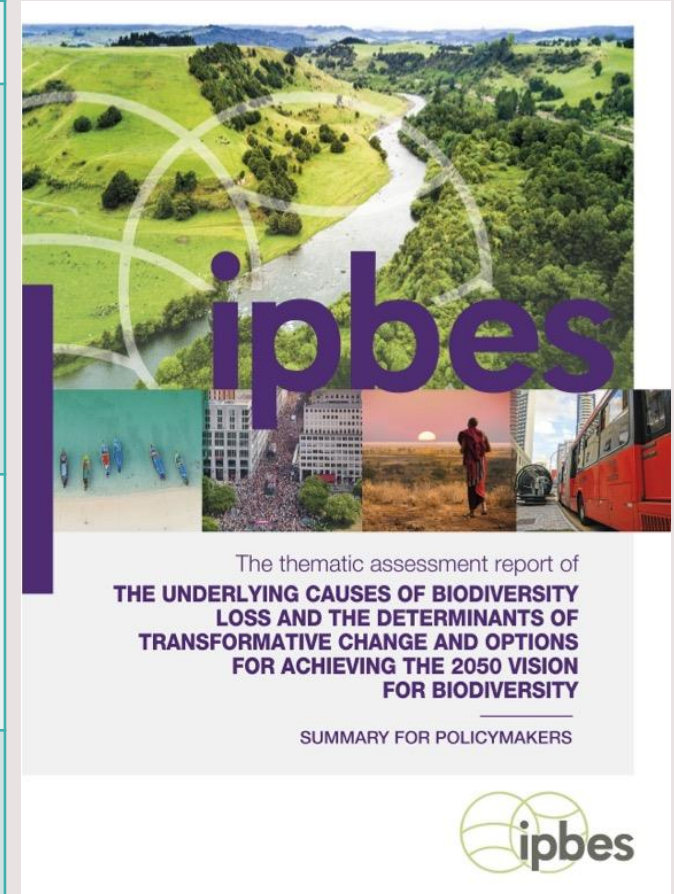
- セクションA: 社会変革は急務かつ必要、困難であるが、可能 (1-6 KMs)
Transformative change is urgent, necessary and challenging – but possible
- セクションB: 社会変革への戦略と行動 (7-12 KMs)
Strategies and actions for transformative change
- セクションC: 社会変革の実現に向けたすべての主体の役割 (13-17KMs)
Enabling transformative change: Roles for all

背景メッセージ(Background Messages: BMs): 34 BMs

- セクションA: A1-11 BMs
- セクションB: B1-12 BMs
- セクションC: C1-11 BMs

付録 (Appendices)

- 付録 I: 信頼度の示し方
Communication of the degree of confidence
- 付録II: 生物多様性損失と自然衰退に対処するため、あらゆるセクターの政策、事業、その他取り組みの社会変革ポテンシャルを実現するための実践的指針
Practical guidance for realizing the transformative potential of policies, projects and other initiatives in any sector to address biodiversity loss and nature's decline

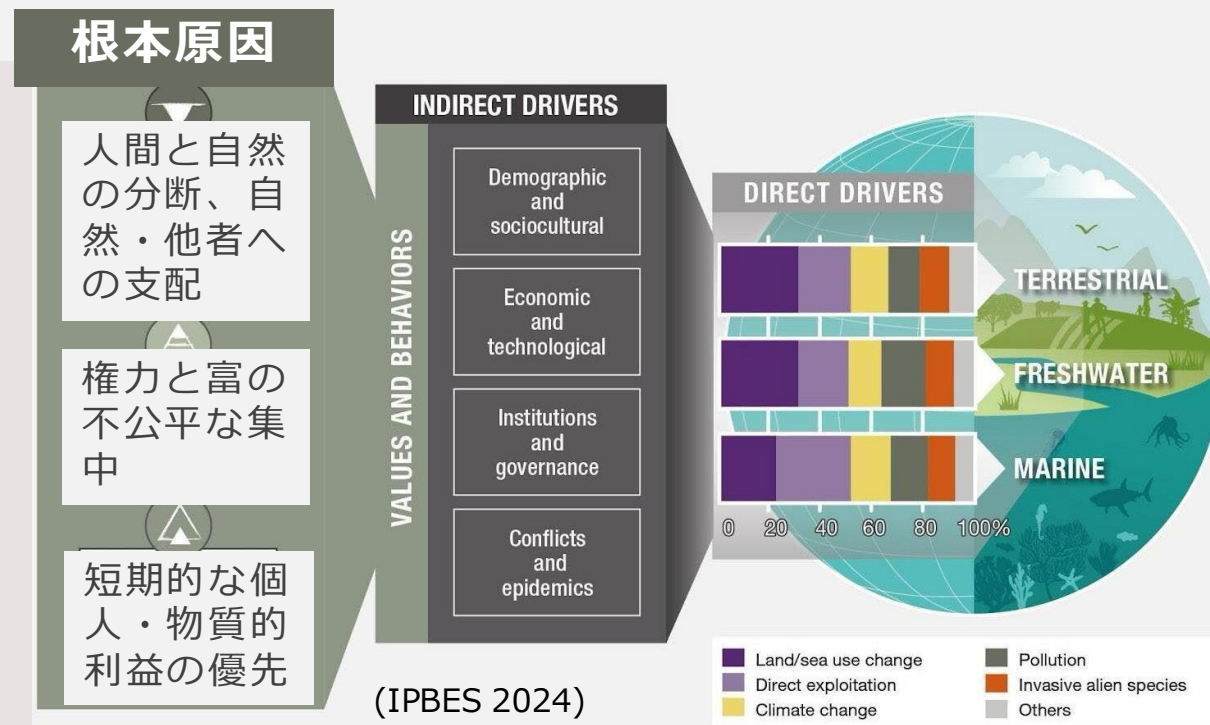


セクションA：社会変革は急務かつ必要、困難であるが、可能

□ **KM1**：公正で持続可能な世界のための**社会変革**は、生物多様性損失、自然衰退、主要な生態系機能の崩壊に関連する**世界的な相互連関の危機**に対処するために、**緊急かつ必要**である。地球規模の持続可能性を達成するための**行動を遅らせる**ことは、**今行動を起こすことの便益**に比べ、**高くつく**。

- 生物多様性損失と自然衰退の阻止・回復への行動を世界で**10年遅らせると**、即座の行動の**2倍の費用**がかかるが、即座に行動すれば、2030年までに世界で**10兆ドル以上のビジネス機会**、**3億9500万人の雇用が創出**される可能性がある(A1)
- **生物多様性保全のための資金フロー**は、自然に中・高度に依存している**世界のGDP**(58兆米ドル)の約**0.25%**に相当。

□ **KM2**：社会変革は、**見方、構造、慣行**の**根本的かつシステム全体の転換**と定義できる。意図的な社会変革には、生物多様性損失と自然衰退の**根本原因**に対処する形で、これらを転換させると同時に、多くの**先住民族・地域コミュニティ**のように、公正で持続可能な世界の創出に適合した**見方、構造、慣行を認識し、強化**することも引き続き重要。



図SPM1. 生物多様性損失と自然衰退の根本原因、間接要因、直接要因

セクションA： 社会変革は急務かつ必要、困難であるが、可能

□ **KM3**： 生物多様性損失と自然衰退の根本原因に対応・対処し、意図的な社会変革のプロセスを導く **4つの主要原則**：

1. 衡平性と正義(Equity and justice)
2. 多元性と包摂性(Pluralism and inclusion)
3. 人間と自然が尊重し合う互恵的な関係(Respectful and reciprocal human-nature relationships)
4. 適応的な学習と行動(Adaptive learning and action)



生物多様性損失と自然衰退の根本原因で形成された見方、構造、慣行



4つの主要原則に導かれ、根本原因の影響を取り除いた見方、構造、慣行に変化



社会変革の原則に沿った見方、構造、慣行が一般的となった公正で持続可能な世界

図SPM2. 公正で持続可能な世界への社会変革の枠組み

(IPBES 2024)

セクションA： 社会変革は急務かつ必要、困難であるが、可能

□ **KM4**：公正で持続可能な世界に向けた社会変革には、**体系的で持続的、広範な課題**を克服する必要があり、これら課題は、社会変革を妨げ、**現状維持を強化する障壁**となっている。

■ 克服すべき **5つの全体課題**(A6)：

1. 根強い支配関係、特に植民地時代に生まれ、広まった支配関係
2. 経済・政治的不平等
3. 不十分な政策と適合性のない制度
4. 持続不可能な消費・生産パターン、個人の習慣と慣行
5. クリーンな技術への限られたアクセスと、統合されていない知識とイノベーション・システム

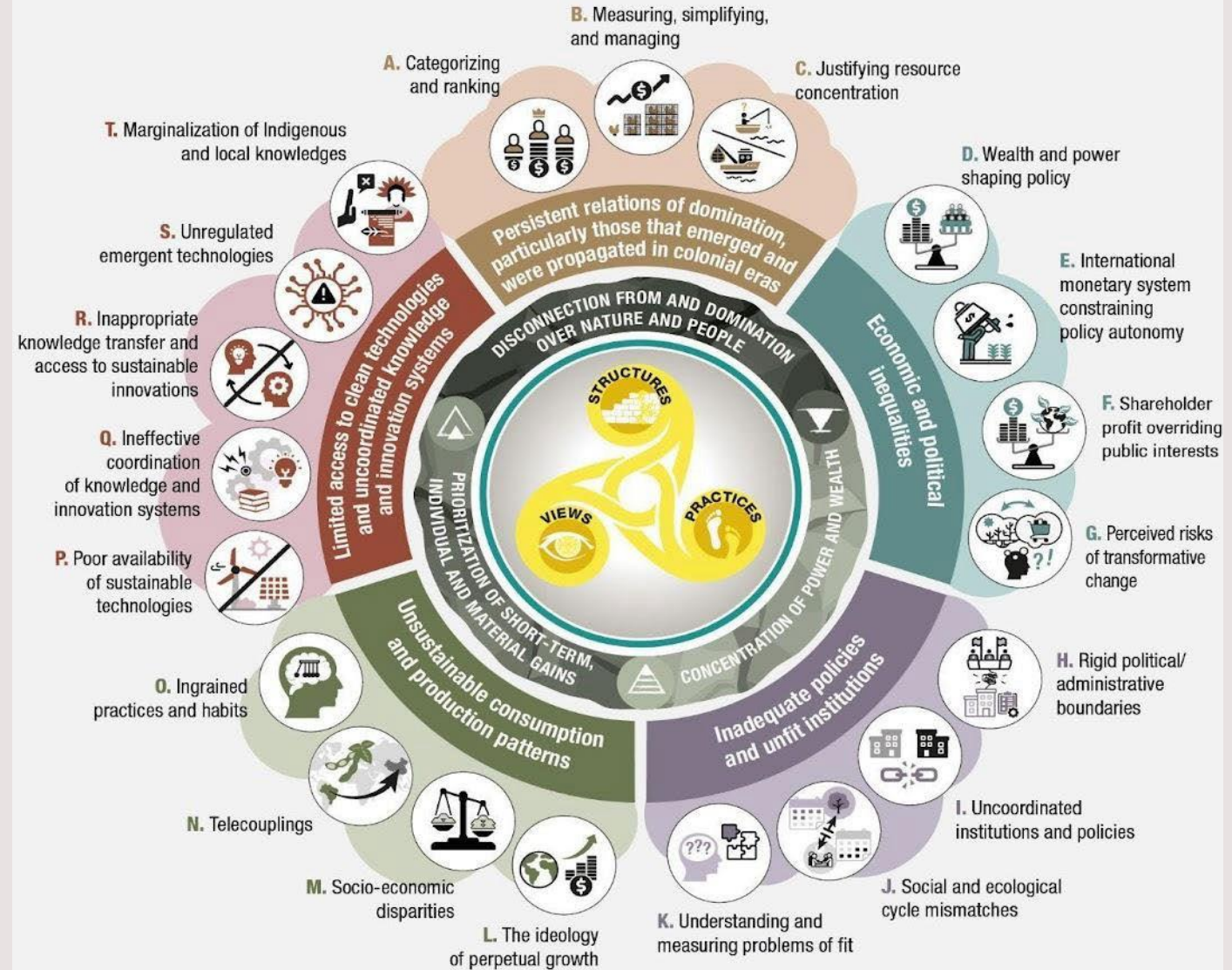


図 SPM3. 社会変革への課題と障壁の相互関係

(IPBES 2024)

セクションA： 社会変革は急務かつ必要、困難であるが、可能

□ KM5：先住民族や地域の知識を含む**多様なアプローチや知識体系**からの洞察を織り交ぜることで、社会変革のための**戦略や行動が強化**される。

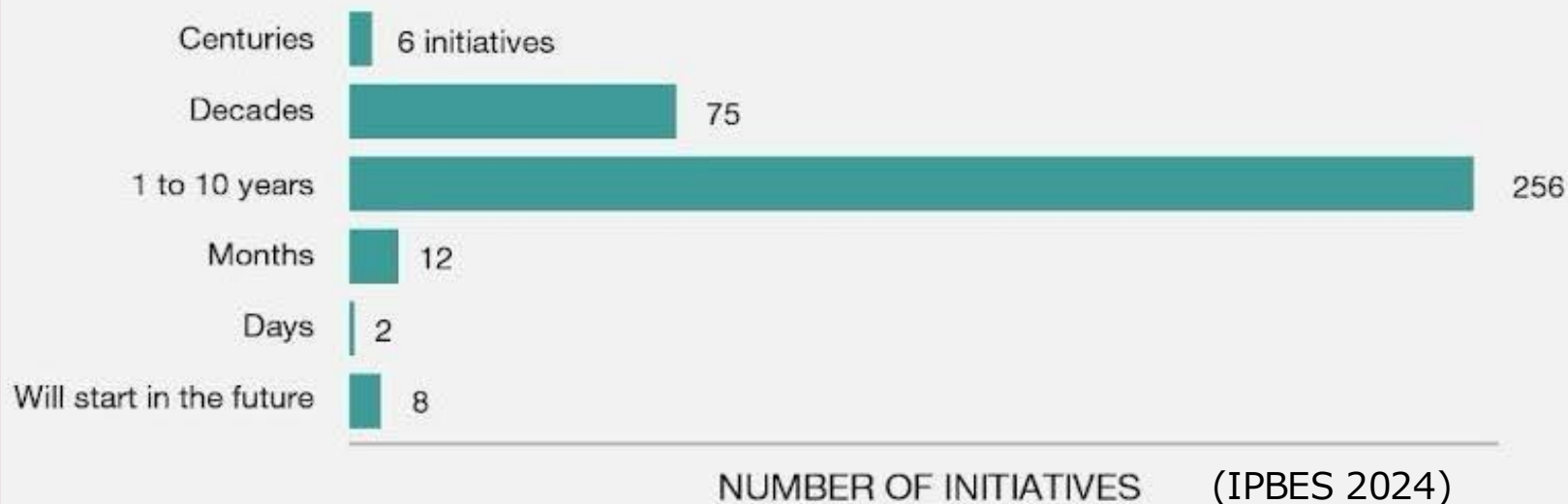


- 1. システム**：社会変革は**システムの転換**を通じて起こるため、システムを構成するビジョンや目標、フィードバック、構造など、システムの**複数の側面**に注意を払う必要がある。
- 2. 構造的**：持続可能性を促進するような形で**経済的、文化的、政治的、社会的な構造**が転換する時に社会変革が起こる。
- 3. 内面的変革**：社会変革は、**個人の価値観、信念、世界観の転換**、世代内・世代間、人間・非人間の**関係の認識**を通じて起こり、レベルを超えた統合的な行動につながる。
- 4. エンパワースメント**：社会変革は、**衡平性と持続可能性に有利な力関係**に変革する形で、**現在疎外されている集団が主体性と権力を主張**する時に起こる。
- 5. 知識の共創**：社会変革は、様々な主体（市民社会、先住民族・地域コミュニティ、科学的主体など）の**協働により知識を共創**するプロセスを通じて支えられる。
- 6. 科学技術**：社会変革は、**科学技術的な発見が新しい技術や考え方、解決策**をもたらし、それが**社会に取り入れられ、規模を拡大**することで起こる。

セクションA： 社会変革は急務かつ必要、困難であるが、可能

□ KM6：社会変革は**可能**で、変化の**質と方向性**により特徴づけられる。**規模の大小を問わず**、生物多様性損失や自然衰退の**根本原因**に取り組むことで、公正で持続可能な世界に向けた社会変革に貢献。

- 社会変革ポテンシャルを実証的に示す広範な**ケーススタディ**の多くが、**環境・社会の両面でポジティブな結果を10年以内にもたらした**(A10)。
- 価値観や世界観により形成される**持続可能な世界のビジョン**は、**社会変革を動機づける**上で根本的に重要である(C1)。



図SPM4. 10年以内にポジティブな結果が証明

391ケーススタディについて社会変革の可能性を持つ取り組みの数を変革の時間軸別を示す

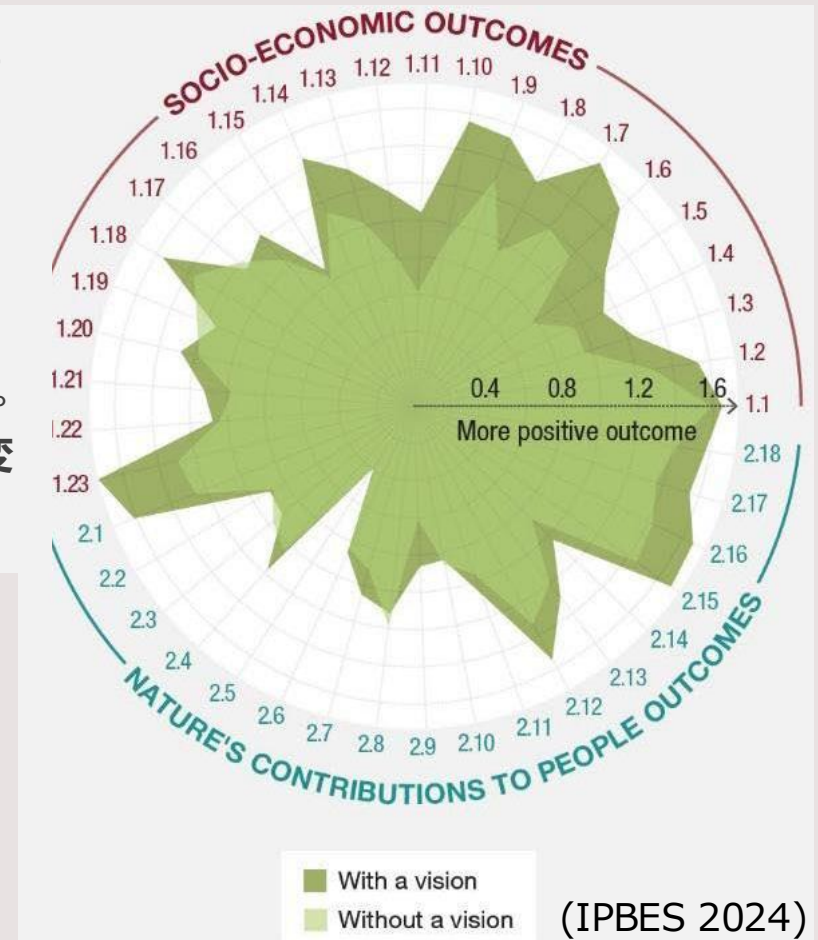


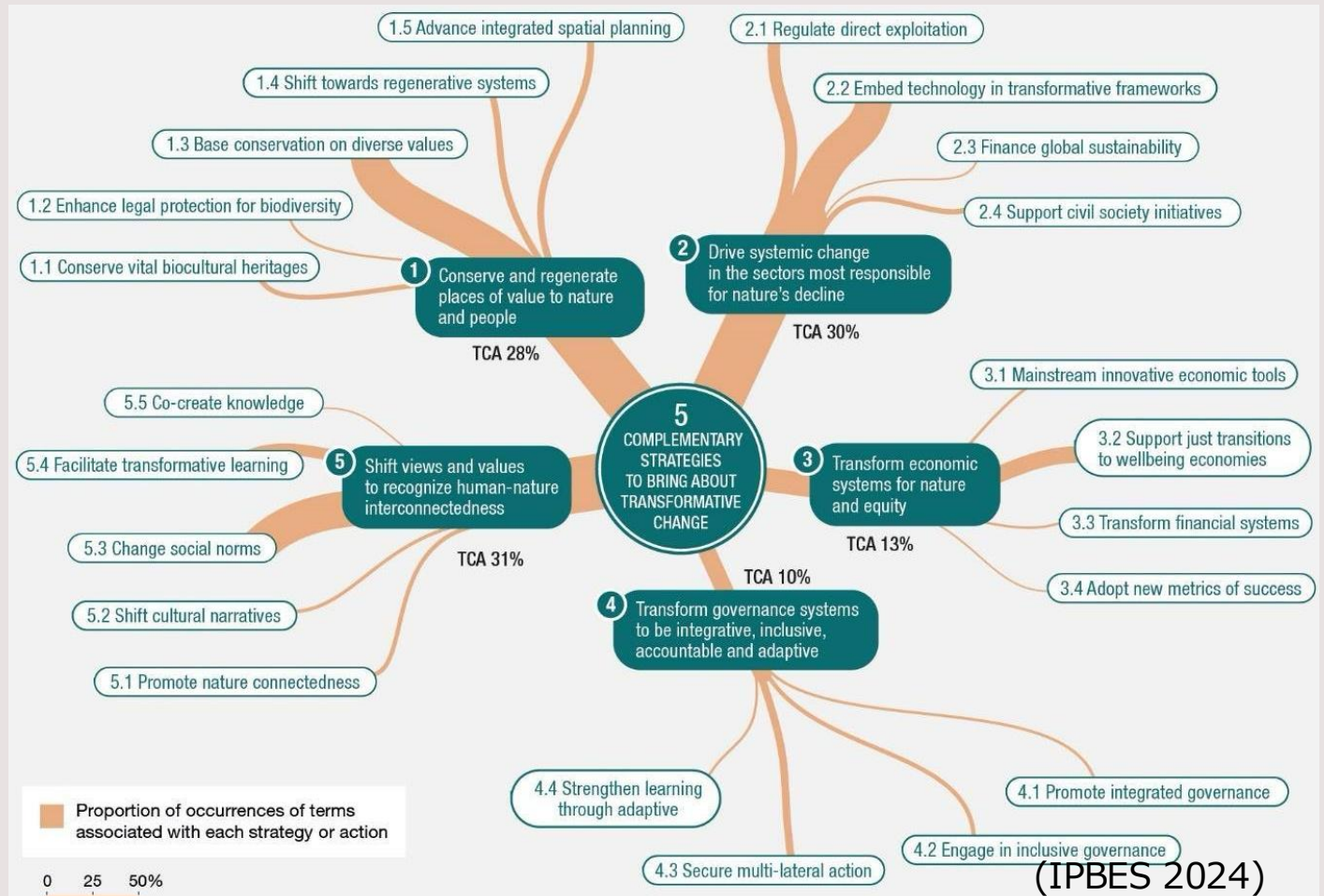
図 SPM9. ビジョンによる変革の実現

明確あるいは暗黙的なビジョンを背景にした社会変革ポテンシャルのケースは、社会経済及び環境面でよりポジティブな結果と関連

セクションB：社会変革への戦略と行動

□ KM7：5つの主要な戦略とそれらに関連する行動は、補完的かつ相乗的な効果を持ち、地球規模の持続可能性のために意図的な社会変革を進める大きな可能性を有している。各戦略のための統合された一連の行動は、硬直化した見方、構造、慣行を適応的に転換させる。

- 戦略1：自然と人間にとって価値のある場所の保全及び再生
- 戦略2：生物多様性損失と自然衰退に最も責任を負うセクターにおける体系的な変革
- 戦略3：自然及び衡平性のための経済システムの変革
- 戦略4：統合的、包摂的、説明責任及び適応力のあるガバナンス・システムへの改革
- 戦略5：人間と自然との基本的な相互の結びつきを認識及び優先した社会的な見方及び価値観への転換



図SPM6. 戦略または行動に関連する用語の出現比率を示すデンドログラム

線の太さは、少なくとも1つの主要な戦略（n = 420,523）に出現する文書のタイトルと抄録に、22のアクションと5つの戦略に関連する566の用語が出現する割合を示す

セクションB：社会変革への戦略と行動

- **KM8**：特に先住民族・地域コミュニティによる持続可能なスチュワードシップを伴う**自然保護**は、包括的で十分なリソースを持ち、**自然と人間にとって価値の高い場所**に焦点を当て、**先住民族の権利**が認識されている場合には、社会変革に貢献（**戦略1**）

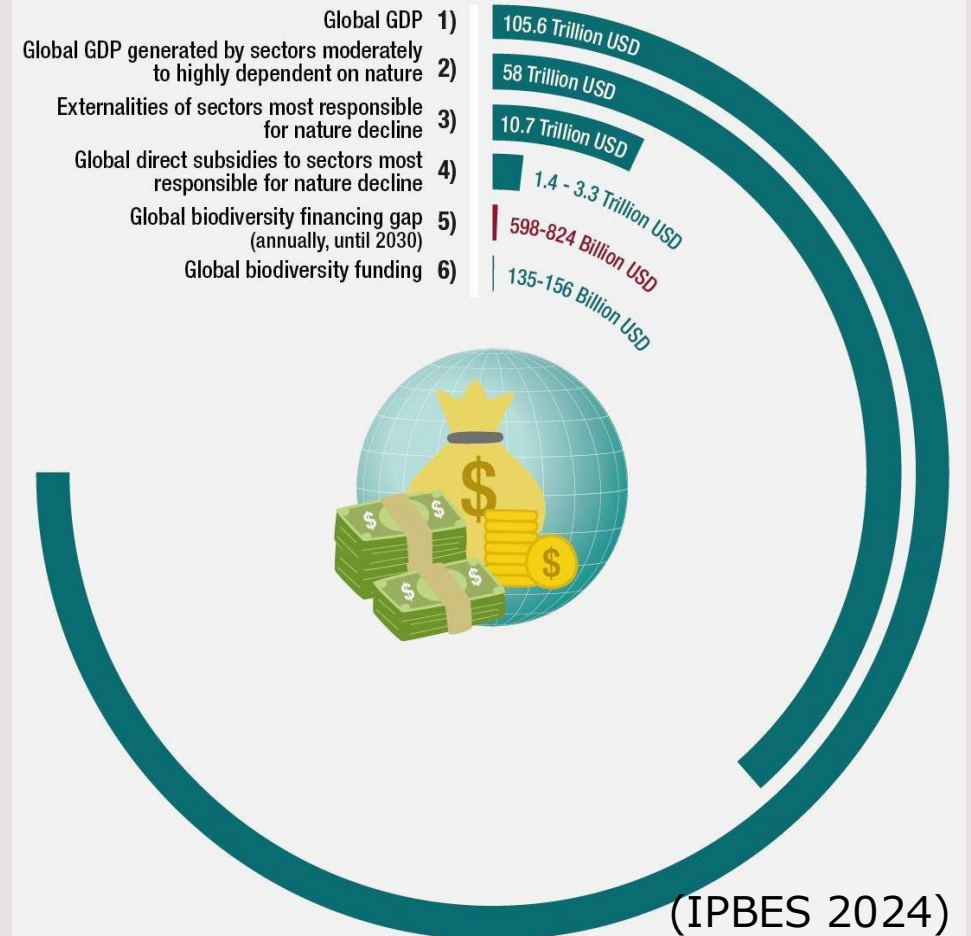
行動—生物多様性の法的保護の強化(行動1.2)、多様な価値の基盤保護(行動1.3)、再生システムに向けた転換(行動1.4)、統合的な空間計画の展開(行動1.5)

- **KM9**：**生物多様性損失を大きく引き起すセクター**(農林水産業・インフラ・鉱業・化石燃料部門等)の**変革**は、地球規模の持続可能性を推進し2050年生物多様性ビジョン達成の社会的利益をもたらすために極めて重要かつ緊急（**戦略2**）

行動—直接的搾取の規制(行動2.1)、地球規模の持続可能性のための金融(行動2.3)、市民社会の取組への支援(行動2.4)

- **KM10**：社会変革の戦略には、**支配的な経済・金融パラダイム**を変革し、**個人的利益よりも自然や社会的衡平性を優先**させることが含まれる（**戦略3**）

行動—革新的経済ツールの主流化(行動3.1)、ウェルビーイング経済への公正な移行支援(行動3.2)、金融システムの変革(行動3.3)、新たな成功指標の採用(行動3.4)



図SPM7：地球規模の持続可能性に関する経済概況：相互依存と資金ギャップ

経済セクターの自然依存度(2)と影響度(3)、および自然衰退を促進する経済セクターへの公共投資(4)と生物多様性への資金提供(6)の間のギャップを示す

セクションB：社会変革への戦略と行動

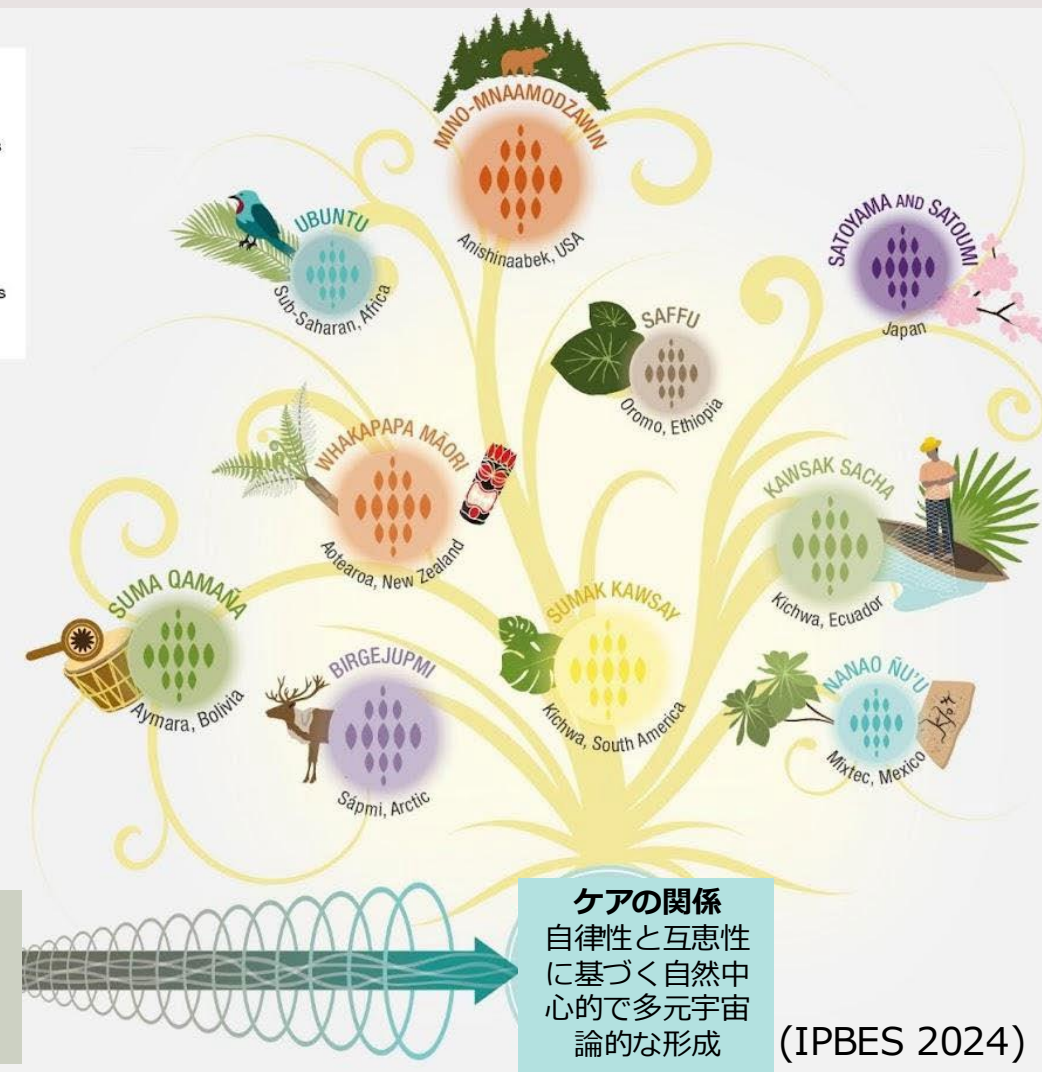
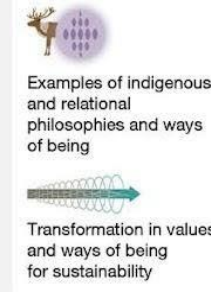
- KM11：包括的で説明責任を持ち、適応力のある**ガバナンス・システム**は、多様なステークホルダーの意思決定への参画に基づき、ガバナンスの課題に取り組むことで、社会変革の推進に極めて重要な役割を果たす（戦略4）

行動－統合的ガバナンスの促進(行動4.1)、包括的ガバナンスの取組(行動4.2)、適応を通じた学習の強化(行動4.4)

- KM12：支配的な**社会の見方や価値観**を転換させ、人間と自然の**相互連結性**を認識し優先させることは、社会変革のための強力な戦略。こうした転換は、文化的ナラティブを通じ、支配的な社会規範を変え、変革的な学習プロセスを促進し、新しい知識を共創し、人間と自然の相互依存とケアの倫理を認識する異なる知識体系・世界観・価値観を編み出すことで促進できる（戦略5）

行動－自然との連結性の促進(行動5.1)、文化的ナラティブの転換(行動5.2)、社会規範の変革(行動5.3)、変革的な学習の促進(行動5.4)、知識の共創(行動5.5)

※ナラティブ：定量的シナリオの基盤となる特徴、一般的な論理、展開を定性的に記述したもの



図SPM8. 先住民族及び関係的な哲学とあり方の例

先住民族の哲学の多くは、尊敬及び人間と自然の間のと互恵性の重要性を認識するケアの倫理に基づく関係的な言語、概念、慣行を通して表現されており、そうした文化、言語、哲学の再生や支援は、人間中心的な支配関係から、生態中心的(ecocentric)なすべてへのケアの関係性への移行の機会をもたらす

セクションC：社会変革の実現に向けたすべての主体の役割

□ **KM13**：社会生態的な相互依存関係、人間以外の生命体の主体性、ケアの倫理を認識し、それによって社会変革を動機づけるためには、**ポジティブなビジョンを共有し発展**させることが特に重要。**ビジョン**は、価値観や世界観により形成される人間と自然の望ましい将来像であり、多くの場合、そうした将来像に到達するための**明確な目標や意図的な取組**を含む。

- 人間と自然にとって望ましい将来像に向けた変革的展望の881ビジョンの評価結果として特定された**5つの中核的テーマ**(C1)：

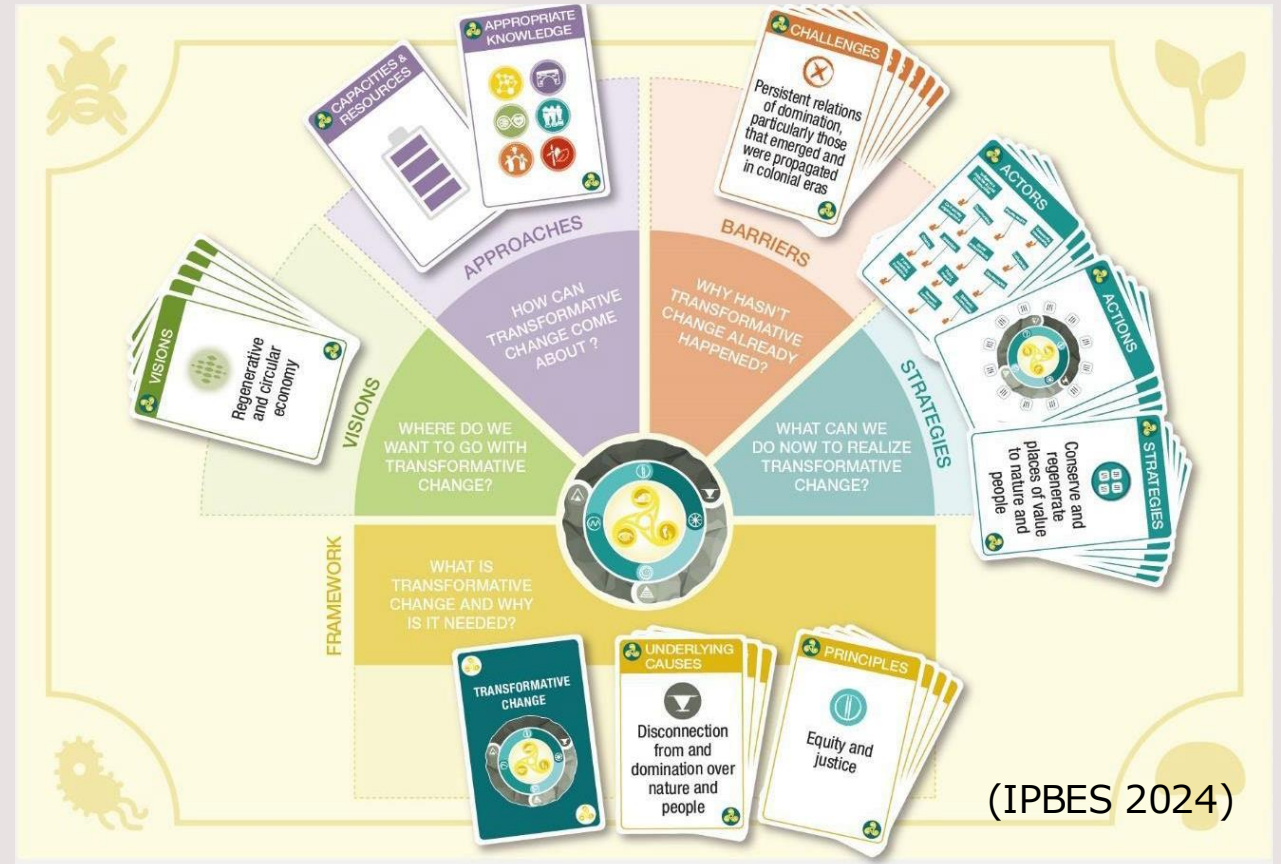
1. **再生・循環経済**(Regenerative and circular economies)
2. **コミュニティの権利とエンパワーメント**(Community rights and empowerment)
3. **生物多様性と生態系の健全性**(biodiversity and ecosystem health)
4. **(人間と自然の)精神的繋がり**の再構築と行動変容(Spiritual reconnection (between humans and nature) for behavioural change)
5. **革新的なビジネスとテクノロジー**(Innovative business and technology)

※**主体性(Agency)**：個人や集団の主体(Actors)が、出来事やプロセスの結果を変える能力。

※**ケアの倫理(Ethics of care)**：身体、自己、環境、世界を維持するために、人間及び人間以外が行う多様でダイナミックなことであり、利他的で一方向的な行為ではなく、人間以外（動植物、微生物、現象、インフラ、物理的力、精神的存在、テクノロジー）も参加する、集団的、身体的、相互的な作用を含むものとして認識される。これらの倫理と関連する慣行は、人間と人間以外が相互に依存し合う複雑な地球生命の網の目を循環させ、再生するために極めて重要。

セクションC：社会変革の実現に向けたすべての主体の役割

- **KM14**：社会全体で変革を達成するためには、**すべての主体やセクター**が社会変革の**ビジョン**を描き、**協力的に**貢献する**社会全体**(whole-of-society)・**政府全体**(whole-of-government)の**アプローチ**が必要。
- 社会変革のためには、主体が個々に変革を追求するより、**主体やその集団の連合 (Coalitions)**の方が、より効果的(C7)。



(IPBES 2024)

図 SPM12. 原則、ビジョン、アプローチ、戦略間の相乗効果により、障壁や課題に対処し、社会変革に向けた行動や取組を導く

- **KM15**：**政府**は、**政策の一貫性**の促進、様々なセクターにわたる政策や計画での自然や自然の人間への寄与に資する**規制**の制定・施行、**革新的な経済・財政ツール**の導入、環境に**有害な補助金**の廃止・段階的廃止・改革、**国際協力**の推進により、社会変革の**強力な実現者**となる。

- 財政・経済・規制的手段(規制、税金、料金、取引可能な許可証など)から成る既存の政策の多くは、自然に優しい慣行に悪影響を及ぼしているが、**社会変革ポテンシャル**があり、環境基準に基づく補助金の導入などの例もある—**2021年以降、環境に有害な補助金に対する公的資金の総額は55%増加(C9)。**

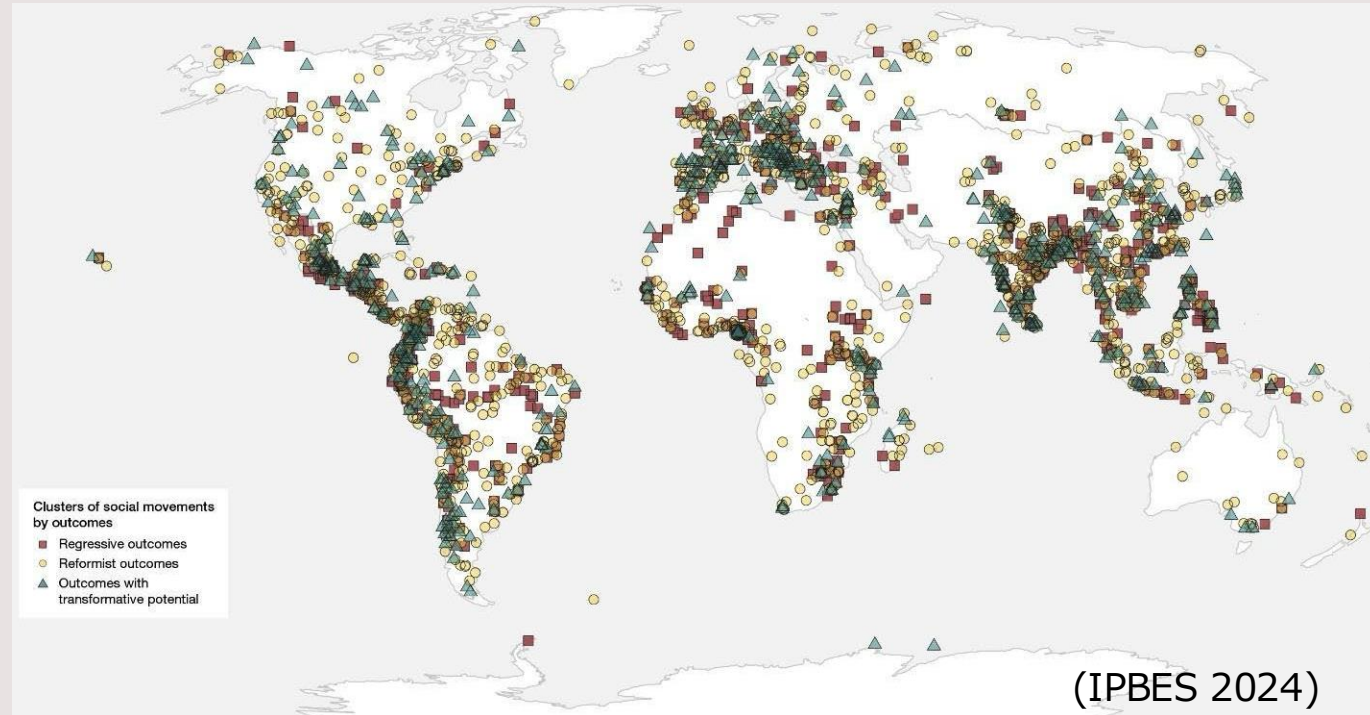
セクションC：社会変革の実現に向けたすべての主体の役割

□ **KM16：市民社会組織**は、生物多様性損失や自然衰退との闘いを通じ、**社会変革の必要性を指摘**しているが、変革のための社会的動員は、変革の重要側面を持たない対応を引き起こすことが多く、市民社会の取組や環境保護活動家は、**暴力や権利侵害に直面**してきたため、これらを**保護することが社会変革の支援**となる。

□ **KM17：社会変革を目指す上手く設計された政策や企業・民間セクターの取組やツール**は、社会経済発展や消費慣行に影響を与える**経済的インセンティブ**を提供する。

- 森林認証と漁業認証の持続可能性と生物多様性への影響に関するエビデンスは混合的：認証のポテンシャルはあるものの、認証された森林の割合は世界で15%未満、認証された漁獲量は世界で15%未満。

2,802件の社会動員(1992-2022年)の分析結果によると、46,955件の環境脅威が争点:半数以上が改革的な結果(54%)(技術的解決、既存規制の適用、補償)、約4分の1(27%)は後退的な結果(裁判の失敗、環境擁護者に対する弾圧や暴力)、19%は変革ポテンシャルを持つ結果(活動の撤回、中止、一時的な中断)に至った。



図SPM11. 社会運動が生物多様性損失の要因に挑戦し、社会変革を促進する上で重要な役割を果たす

KMGBF目標への脅威と闘う社会運動の位置 (n=2,802)

[四角]：後退的な結果(例：失敗判決、犯罪化、暴力)

[円]：改革主義的な結果(例：環境改善、技術的解決)

[三角]：変革的ポテンシャルの結果(例：自然を脅かす活動の中止・撤回)

付録II：生物多様性損失と自然衰退に対処するため、あらゆるセクターの政策、事業、その他取り組みの社会変革ポテンシャルを実現するための実践的指針

- KMGBFやSDGs達成に向けた、社会変革アセスの活用方法を提示
- 戦略・行動が、1)根本原因に対処、2)多様な理論やアプローチの適用、3)社会変革の障壁となっている課題の克服に貢献することで、公正で持続可能な世界のビジョンを実現し得る
- 10の反復的なステップ(チェックリストでなく、実践的な指針として社会全体・政府全体的アプローチを促進):
 1. 社会変革(対象などの特定)
 2. 原則
 3. 戦略
 4. 根本原因
 5. ビジョン
 6. アプローチ
 7. 課題
 8. 方法・考え方・あり方
 9. 主体
 10. 行動



図 SPM14. あらゆるセクターにおける政策、事業、その他の取組の社会変革ポテンシャルを実現の実践的指針 (IPBES 2024)

IPBES-11での交渉

□ 交渉プロセス

- **WG 2**：建設的でポジティブなコメントから開始、比較的スムーズな議論・交渉
- **最終全体会合**：ブラジルよりWG 2 承認テキストの修正要求
 - 例：企業のDue Diligence政策と貿易協定、生産・消費のダウンスケール
 - **特定の貿易措置の是認**と理解される恐れがあり、代表団にとって「**レッドライン**」
→議長フレンズ会合の議論により解決(ブラジルは発言を総会報告に残すよう要求)

□ 主な争点

- 「母なる地球」の文言追加（議長フレンズ会合の設置）、根本原因としての「資本主義」（物質主義、新自由主義、植民地主義、グローバル化）への言及、「生物多様性オフセット」に関するエビデンスなど



IISD/ENB - Kiara Worth



議長フレンズ会合
(2024年12月16日)

ご清聴ありがとうございました